

令和6年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

2年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字の数が増え、毎回の漢字小テストで80点未満の児童が2割程いる。また、100点のときや30点のときがあるなど、定着度に斑がある児童が一定数見られる。 ○正否がない問いに対する自分の考えに自信をもって表現することが苦手な児童が3割程度見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃から作文やノートを書く際に、既習の漢字をすすんで使用するよう促し、定着を図る。また、宿題や漢字のテストに取り組む際、間違えた漢字を直すだけでなく、何回も書きながら練習をして正しく覚えられるようにする。 ○多くの授業で、児童同士で意見を交流させる場をすすんで設ける。また、5分間の短い時間で日記を書く活動を定期的に行い、日常での経験を説明したり、自分の思いや考えを表現したりする練習を積み重ねることで慣れるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○「長さ」、「かさ」、「時間」など量の分野において、到達度の平均が85%程度と、他の単元の平均（90%程度）よりも低くなっている。 ○「長さのたんい」では、手指の巧緻性の個人差が大きく、正確に作図することに苦慮している児童が20%程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実生活の中で長さやかさを使って表したり、時刻や時間を意識させたりする体験をくり返すことで、量感覚や単位換算の力の定着を図る。 ○いろいろな教科でものさしを使う活動を積極的に取り入れ、測り方や直線の引き方を習熟させる。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○まちたんけんやミニトマトの観察など、活動に対して主体的に取り組む児童は多い。一方で、活動の目的を考えずに取り組む児童が30%ほどいるので、事後活動で自分の考えや感想を書くことに苦戦することも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前学習で観察のポイントを確認したり、具体的な観察の仕方を説明したりすることにより、どのように観察すればよいのかをイメージさせ、少しずつ具体的な観点をもって観察をできるようにする。また、活動を行う際、児童が観察することを意識できるように教員が繰り返し声掛けを行い、活動の中で何をすべきなのかを考えて取り組めるよう促す。 	

<p>図工</p>	<p>○どの児童も皆楽しみながら活動に取り組むことができているが、技術が十分に身に付いていない児童が若干名いる。</p> <p>○自分がその時に描きたいものを優先してしまい、学習した技法を有効に活用して表現できない児童がいる。</p>	<p>○技法の習得について、題材によっては一度練習をしてから製作に取り組ませるようにする。</p> <p>○活動の際にねらいとなる技法を言葉だけでなく具体的に映像等で確認し、作品に活かせるようにする。また、製作にとりかかる前に、形や色などの抽象的なものからイメージを膨らませる活動を取り入れるようにする。</p>	
<p>体育</p>	<p>○体を動かすことに楽しさを見出し、多くの児童が意欲的に活動できている。しかし、ねらいを意識した動きをすることや、よい動きに気付いて共有することに関しては、個人差がある。また、ゲームの種目だと勝敗のみにこだわってしまう児童もいる。</p>	<p>○作戦を考えたりねらいに沿った動きをしたりしている児童を積極的に価値付け、よい動きを広げていく。また、よくできたところや反省点を伝え合う時間を設けて、誰もがその対話に参加しながら学びを深めていけるようにする。</p>	